

independence...教授に発言を褒められた

米サスケエハナ大学に短期留学

寄稿 若狭あいね (人間科学2)

今春、国際交流協定校の米国サスケエハナ大学に短期留学した若狭あいねさん(人間科学2、空手部)から留学体験記が届いた。現地の授業に参加したエピソードや空手の稽古「写真」に励んだ様子を伝えてもらった。

柔術教室で空手の稽古も



迎えた最終日。その日の鳴根克己教授からマンのテーマはアメリカの美德について。私が手を挙げて「Independence」と答えると、ジェフリー・マン教授から「この1カ月ちょっとでアメリカの本質を学んだようだ」とお褒めの言葉をいただきました。たった一つの単語でも、私には大きな一歩でした。



▲ 右から2人目が若狭さん

豪ウーロンゴン大学生ら33人参加

夏期日本語・日本事情プログラム

国際交流協定校などの一で日本語学習や日本語がスタートした。先生は来年の後期、海外客員教授として



▲ 6月30日に行われたウエルカムパーティーで

豪ウーロンゴン大学、米オレゴン大学、韓国の檀国大学、ポーランドのワルシャワ大学などから33人が参加。6月20日から8月8日まで(ウーロンゴン大学生は6月29日〜7月19日)、日本語の学習に励む。ウーロンゴン大学生は、ウーロンゴン市と姉妹都市である川崎市の福田紀彦市長を訪問したほか、インターナショナルフェスティバルなど川崎市のイベント多数に参加した。

講演、質疑すべて英語



「経済学講座」

第154回国際交流特別講演会「やさしい英語による経済学講座」が5月24日から6月28日まで全5回、生田キャンパスで開催された。講演から質疑まですべて英語で行われた第5回講座



117人が交流「留学生」スポーツ大会 留学生と日本人学生がスポーツを通じて友好を深める「第13回育友会長杯争奪留学生スポーツ大会」が6月15日、生田キャンパスの北グラウンドで開催された。写真。国際交流会SHIP、中国人留学生会、韓国人留学生会から合わせて17人が参加。高野雅夫育友会長のあいさつの後、サッカーが行われた。梅雨の晴れ間、ワールドカップにひけをとらない熱戦が繰り広げられ、国際交流会SHIPのチームが優勝した。

▲ イタリアのシエナの街並み

を別にしてもよく似ていると同時に、遅まきながら、日本語の語彙がなければ分かりようがないということに気がついたのである。

次の段階は文化を知ることである。言葉の背景にある歴史や文化の中で生まれた文学、芸術、哲学、思想などい

外国語修得には 国語と一般教養が効く

大林 守 商学部教授
日本の小・中・高を卒業した学生ならば、国語を12年間、英語は6年間は勉強している。単純に考えると12年間勉強した日本語の器に6年間の英語を入れていると考えることができる。こう例えたのは、日本語の器が小さいと、入れることのできる英語も限定されてしまうからである。この当たり前すぎることに気がついたのは、44歳になってからである。英語とイタリア語の言葉の起源は異なると言われている。しかし、英語にabove allという言葉がある。「何よりも」と訳されることが多い。これをイタリア語ではsoprattuttoと言い、sopra=above=上、tutto=all=全て、となっている。人間の考えることは語源

シューベルト交響曲8番など演奏



専修大学フィルハーモニー管弦楽団(団長・王伸子文学部教授、学生代表・平松小葉さん)が6月13日、川崎市多摩市民館大ホールで開催された。学生指揮による校歌演奏のあと、初めて迎えた佐々木新平氏の指揮で、ブラームスの「大学祝典序曲」、グリーグの「ペール・ギュント」(第1、第2組曲より抜粋)のあと演奏したのはシューベルトの交響曲第8番「ザ・グレイト」。しっかりとした線の太さを感じさせる見事な演奏に800人で埋まった会場から盛大な拍手が送られた。アンコールはJ・シュトラウスジュニアの「雷鳴と雷光」だった。

リハーサル中の専フィルメンバー